

令和元年度事業報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め、公益目的事業では以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めた。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。令和元年度は滋賀県瓦屋寺、大本山南禅寺、大分県自性寺などの所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『武溪集訳註』『古月禅師四会語録』『禅語に学ぶ生き方。死に方。向上編』『蘭溪録』を、マルチメディア関連では『2020年禅語こよみ』、DVD禅僧が語るシリーズの『愚の如く』『法は人によって尊し』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行なった。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、齊雲和尚章(全二五則の)第五則より読み始め、永福和尚章(全六則)、福清和尚章(全四則)、潮山和尚章(全四則)、惟勁禅師章(全五則)の第二則までの計三十六則を読み進んだ。研究会の開催日は、2019 年 4/12、4/26、5/10、5/24、6/14、7/12、9/27、10/11、10/25、11/8、12/13、2020 年 1/24、2/14、2/28、3/13。

講師：衣川賢次(花園大学教授)

班員：川島常明(大通院住職)／松岡由香子(山水庵庵主)／久保讓(花園大学科目等履修習生)／鈴木洋保(花園大学非常勤講師)／鈴木史己(南山大学講師)／土屋昌明(専修大学教授)／呉進幹(杭州佛学院留学生：戒法法師)／林芬妙(花園大学博士後期課程：台湾留学生)／陳菲(花園大学修士前期課程：中国留学生：法名空慧)／藤田和敏(相国寺寺史編纂室研究員)／羅旌超(花園大学大学院：中国留学生：法名道悟)／李セン〔王十宣〕(四川大学中国俗文化研究所教授：京都大学人文科学研究所外国人研究員)／王珂(花園大学修士前期課程、留学生)、葛研(花園大学修士前期課程、留学生)、王瑤(佛敎大学修士前期課程、留学生)、吉本えみり(ヤスイキヨシ事務所)

『神会語録』研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次(花園大学教授)／中島志郎(花園大学教授)／北島利信(花園大学非常勤講師)／松岡由香子(山水庵庵主)／千田宗琢(花園大学非常勤講師・国際禅学研究所研究員)／久保讓(花園大学科目等履修習生)

『景德伝灯録』研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、巻一七の撫州疎山光仁禅師章(12 則)・澧州欽山文邃禅師章(11 則中 4 則未稿)・台州瑞巖師彦禅師章(8 則)・懷州玄泉彦禅師章(3 則)・吉州靈巖慧宗禅師(3 則)・福州羅山道閑禅師章(17 則中 11 則)までを読み進んだ。

また、これまでしばしば譯注に利用してきた『景德伝灯鈔録』『五灯拔粹』を配布して欲しいという要望があり、『祖堂集』『景德傳燈録』研究会の希望者に実費にてコピー製本

を配布した。

研究会の開催日は、2019年5/26、7/31、10/6、2020年1/5、3/22。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（山水庵庵主）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／三浦國雄（大阪市立大学名誉教授）／土屋昌明（専修大学教授）／下定雅弘（岡山大学名誉教授）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）／齊藤智寛（東北大学教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）／石井修道（駒澤大学名誉教授）／小川隆（駒澤大学教授）／中木 愛（龍谷大学専任講師）／吳進幹（杭州佛学院留学生：戒法法師）／林芬妙（花園大学博士後期課程：台湾留学生）／亀 滋廣（静岡沼津臥雲寺副住職）／岡部 恒（株式会社 恒英 代表取締役）／佐々木柴堂（大阪市天正寺住職）／中西久味（新潟大学名誉教授）／ヴィンセント ブルーゲム（ロンドン大学仏教学研究所）

俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。

日本側投稿論稿

三浦國雄「日本漢学“讀原典”的傳統——老書生的回憶」／西口芳男「禪語三題」
鈴木史己「唐宋禪宗語録研究論文目録」／邢東風「石屋清珙平生及相關人物」

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

臨濟宗經典研究〔班長 西村恵学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和元年度の報告として、上田閑照先生が6月28日に御逝去され、8月25日に京都大学時計台講堂にて「お別れの会」が開催された関係で、三つの研究会、「大蔵会」・「西田哲学研究会」・「西谷研究会」の各々は、回数が一回減ったものもあるが、ほぼ例年の如く開催された。

「大蔵会」では、継続して『成唯識論』に取り組んでいる。チューターは大井和也氏が務め、参加者は十数名であるが、現象学関係の研究者も含めて、各自熱心にとり組んでいる。大橋良介氏の協力で日独文化研究所が研究会の場所を提供してくれている。

西田哲学研究会（秋富克哉氏世話役）では、目下『一般者の自覺的体系』の第二論文「述語的論理主義」を読了して、次回から第三論文「自己自身を見るものの於てある場所と意識の場所」に取り組む予定である。

西谷研究会（森世話役）では、夢窓国師の『夢中問答』を継続輪読した後に、西谷先生

の後期の作品の講読研究として『大谷講義』（著作集第 24 巻）を継続中（第十講）である。大学院生など若い人々の参加が多くなりつつある。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、月船禅慧『武溪集訳註』を 31 年 4 月に刊行したほか、徹翁義亨『正傳庵法度』を令和元年 5 月に、『古月禅師四会語録』を 12 月に刊行した。『平林寺開山語録』の訓注を終了し、令和 2 年 10 月に刊行する。

天龍寺史研究班〔担当 藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成 28 年度より発足。慶長 6 年（1601）以降の天龍寺関係史料を年代順に収める『天龍寺史』近世編の編纂作業を行う。昨年度に引き続いて数名の人員により『年中記録』の翻刻、電子化作業を行なった。10 月には天龍寺宝蔵内の調査を実施。目録と照らし合わせながら簡単な調書を取り、保存状態を確認した。半分ほど完了。

また二月に一回のペースで夢窓録研究会を開催、開山夢窓疎石の語録『夢窓国師語録』の読解を行なった。天龍寺史編纂室を会場として管長・宗務総長・教学部長ほか山内の僧侶、および山外の研究者が出席、藤田がレジュメにて報告し、禅文化研究所西口が補足報告を行なった。本年度にて「円覚寺語録」の部分の検討をほぼ完了した。

『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。今年度は内容見直しのため休止とした。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和元年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2020 年禅語こよみ」（八幡圓福寺所蔵品より）を刊行したほか、「禅語に学ぶ 生き方。死に方。 向上編」刊行した。

また、DVD 禅僧が語るシリーズでは、令和元年 5 月には、永源寺派管長・道前慈明老師の「愚の如く」を、また 10 月には方広寺派管長・安永祖堂老師の「法は人によって尊し」を刊行した。

11 月には、若い人たちを中心に汎用的に利用されている LINE アプリで使える、LINE スタンプ「禅僧なむ その 1」（¥120）をリリースし、3 月末までに 230 ダウンロードを数え売り上げ金額は約 10000 円。また、LINE スタンプの販売にともない、禅文化研究所の公式 LINE アカウントを取得して、以後、お知らせ等の配信を LINE でもおこなっている。

〈2〉 資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。当初、7年を目途として活動してきたが、要望が多いため、今後も各地での調査を継続している。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存している。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力。

令和元年度には、滋賀県の瓦屋寺（妙心寺派）、建仁寺塔頭両足院の悉皆調査（書籍を含む）、大本山南禅寺、大分県自性寺の調査を継続して行なった。また新たに正受老人の遠諱事業の一環として、飯山正受庵所蔵品の悉皆調査を開始した。これらのデジタルアーカイブス調査は、花園大学歴史博物館と強く連携して活動している。また、両足院所蔵書籍のデータ化については、駒澤大学の禅ブランディングプロジェクトと協力する予定ではあったが、当方の調査が先行したため、特に駒澤大学のデータを補完してもらう必要はなくなっている。

また令和元年度末をもって、今まで利用してきたデジタルアーカイブス管理システム「WEB版 禅の至宝」のサーバー利用契約を解約し、今後の新システム構築のために、FutureSpirits や凸版印刷との打ち合わせを行なった。いずれも相当額の構築費が必要なために、どうやって資金調達するかを検討中である。

一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売を開始しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。令和元年度は、東京麟祥院のデータ、八幡圓福寺のデータ、大本山方広寺のデータ、を整理中。自性寺と正受庵の調書の基礎データ入力も行なった。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行なった。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

WEB版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

「特別展覧会」(花園大学歴史博物館と共催)

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

平成31年4月2日から令和元年6月15日まで「大用国師200年遠諱記念 誠拙周樗一鎌倉禅中興の祖」展(円覚寺共催)を、令和元年11月4日から12月14日まで「東海の名刹 奥山方広寺」展(方広寺共催)を花園大学歴史博物館で開催した。

所蔵墨蹟類の保存・修復【50周年関連事業】

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。前年度にまとまった修復を行なったため、今年度の修復はなし。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

誠拙周樗禅師墨蹟資料収集

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師200年遠諱(平成31年正当)に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行する。今年度は、墨蹟集に掲載する資料の調査撮影、ならびに墨蹟集の制作作業を行ない、平成31年4月11日に「二百年遠諱 大用国師遺墨集」として刊行した。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

卓洲胡僊禅師「他非不用頻々拳已過応須旋々除」の意味／妙心寺派と大徳寺派での法式や坐禅の仕方など違いについて／、祖英集の七言絶句について／「一休道歌」について知りたい／俵屋宗達の「牛図」の烏丸光廣による賛文について(以上個人)／仏母慧選の関羽像画賛について／少林無孔笛草稿について知りたい(以上寺院)／ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め32件。その他電話による質問多数。

3. Wikipediaのデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正などを行なった。

〈3〉 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

252号 特集「鎌倉禅中興の祖・誠拙周樗禅師」

253号 特集「枯禅の真髓 ―古月禅材―」

254号 特集「叢林の音（おと）」

255号 特集「栽松翁 飯山の正受老人」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数2,650名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①『武溪集訓注』 横田南嶺・藤田琢司共著 (平成31年4月刊行)
初版800部 月船禅慧の偈頌集『武溪集』を翻刻し、訓読、註、意識を加えたもの。
- ②『訓注 古月禅師四会語録』 能仁晃道 (令和元年12月刊行)
初版300部 近世臨濟禅の巨匠、古月禅材の語録初めての全訓注。
- ③『蘭溪録』 彭丹 (令和2年3月)
初版1200部 建長寺開山蘭溪道隆禅師の語録の現代語訳。
- ④【重版】 『続・語録のことば』2刷 800部
- ⑤【重版】 『臨濟録』2版4刷 500部

禅宗經典研究班の成果

- ①【重版】 『臨濟宗檀信徒經典』13刷 3,000部
- ②【重版】 『臨濟宗檀信徒葬儀法』3刷 300部

マルチメディア研究班の成果

- ①2020年禅語こよみ 八幡市圓福寺所蔵品より (令和元年9月刊行)
初版43,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②DVD『愚の如く』 道前慈明 (令和元年5月刊行)
初版1,200部 禅僧が語るシリーズ第12作。
- ③DVD『法は人によって尊し』 安永祖堂 (令和元年10月刊行)
初版2,500部 禅僧が語るシリーズ第13作。
- ④『季刊禅文化復刻版』Ⅰ～Ⅲ (令和元年7月刊行)
初版各100部 禅文化創刊号より29号までをオンデマンド印刷で復刻。
- ⑤『禅語に学ぶ生き方。死に方。向上編』 西村恵信 (令和元年12月刊行)
初版2,000部 前編にない90の禅語を選び解説。
- ⑥【重版】 『自己を見つめる』18刷 1500部
- ⑦【重版】 『How to do ZAZEN』3刷 2000部

その他

- ①『禅文化研究所研究紀要34号』 (平成31年4月刊行)
電子版(PDF)としホームページ上で無償配布。各派宗務本所や交換先など一部は紙媒体で配布している。

3. 公開講義

- ①「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信(花園大学名誉教授)]
前所長による講義で、『維摩詰所説経』(鳩摩羅什訳)をテキストに一般社会人を対象に

禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は 39 回開催した。約 20 名が参加。

②「西谷『寒山詩』研究会」〔講師 清水大介（花園大学文学部元教授）〕

西谷啓治の著作『寒山詩』を禅的視点から捉え研究する。一般社会人を対象に毎週火曜日に開催。今年度は 9 回開催した。約 10 名が参加。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行なった。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。毎月更新している禅語の解説には、禅文化研究所発行の書籍から選出している。

5. 公開講演会等

公開講演会

春季企画展『誠拙周樗－鎌倉禅中興の祖－』記念講演会

◆平成 31 年 4 月 23 日（火）13:00～14:30

「誠拙周樗禅師の鎌倉における禅の中興」 館 隆志氏（花園大学国際禅学研究所研究員）

◆令和元年 5 月 13 日（月）13:00～14:30

「大用国師を慕いて」 横田南嶺老師（臨済宗円覚寺派管長・花園大学総長）

秋季企画展『東海の名刹－奥山方広寺－』記念講演会

◆令和元年 11 月 23 日（土）13:00～14:30

「方広寺と無文元選禅師」 安永祖堂老師（臨済宗方広寺派管長）

教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につながるための実践講座。令和元年度は京都で「地獄絵解き講座」「仏教美術鑑賞入門」「ピラティス講座」「ヨガ講座」「禅の建築講座」「精進料理講座」「日々の花講座」「お寺で写真講座」「水墨画講座」の合計 9 のセミナーを開講し、一般も含め約 111 名が受講した。

6. 第 14 回東西霊性交流

第 14 回東西霊性交流を令和元年 9 月 11 日より 30 日までフランス及びベルギーの修道院で実施。臨済宗より 4 名、曹洞宗より 3 名（うち尼僧 2 名）が参加した。

7. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。

また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいは Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及した。今年度も一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかったが、MIHO 美術館・三井記念美術館・鳥取県立博物館・佐川

美術館など、各館のショップにて書籍・グッズ類を販売したほか、各地の講演会などに出展し、関連書籍の販売を行なった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。

妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／MIHO美術館（滋賀）／湯木美術館（大阪）

II. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows10 にも既に対応済み。

2. オーダー型管理システムの構築

東福寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

妙心寺派白隠さんの会 会員管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートした。

南禅寺派管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

建長寺派管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

曹洞宗京都府宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

曹洞宗福井県宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

真言宗神奈川宗務支所システム開発

システムの機能追加要望に対応した。

青蓮院管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

藏春寺管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

永保寺管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートした。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ない発売中。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。
主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「近世若州僧宝伝」（臨済宗相国寺派第4教区）、「大用国師遺墨集」（大本山円覚寺）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「版画 十牛図」（まつ九）等

〈2〉 共益事業

1. 臨黄合議所事務局

○年間会議

平成31年4月25日（木）	理事会（大本山建仁寺）
令和元年9月12日（木）	理事会（大本山建仁寺）
令和元年10月10日（木）	移動理事会（大本山佛通寺）
令和2年1月27日（月）	理事会（花園大学）
令和2年1月27日（月）	臨済宗黄檗宗専門道場補佐員会議（花園大学）

○「臨黄会報」の発行（51号・52号）

○第15回臨黄教化研究会の実施 令和2年2月13日・14日（花園大学）

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流（日中臨黄友好交流協会）

○会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

- ①『二百年遠諱 大用国師遺墨集』大本山円覚寺発行／平成31年4月
- ②『正傳庵法度』大徳寺派徳禅寺発行／令和元年5月
- ③『徹翁義亨抄』大徳寺派徳禅寺発行／令和元年5月
- ④『正受老人崇行録』道鏡慧端禅師遠諱事務局発行／令和元年9月

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース（332法語）」を公開している。今年度は更新していない。